

◆ 目黒区 ◆

中小企業の景況

令和元年度第3・四半期
(令和元年10~12月)



目 次

1. 都内中小企業の景況	1
2. 目黒区内中小企業の景況（令和元年10～12月期）	2
(1) 今期の特徴点	2
(2) 今期の景況と来期の見通し	4
製造業	4
卸売業	8
小売業	11
サービス業	14
建設業	17
(3) 調査員のコメント	20
3. 日銀短観／東京都と目黒区の企業倒産動向（2019年12月）	23
4. 特別調査「2020年（令和2年）の経営見通しについて」	26
5. 中小企業景況調査 比較表・転記表	28

調査の概要

1. 調査時期 令和元年10月～12月期（四半期毎実施）

2. 調査方法 面接聴取調査

3. 調査の対象と回収状況

4.

	調査対象事業所数	有効回答事業所数
製造業	76	76
卸売業	26	25
小売業	36	36
サービス業	48	48
建設業	30	30
合計	216	215

調査実施機関 一般社団法人東京都信用金庫協会

分析実施機関 株式会社タイム・エージェント

1. 都内中小企業の景況（令和元年10～12月期）

（一般社団法人 東京都信用金庫協会調べ）

業況の後退が続き悪化が鮮明に～建設業・不動産業も好調感弱まる～



業況判断DI（季節調整済、「良い」企業割合－「悪い」企業割合）は-6.2（前期は-4.6）と前期に比べ1.6ポイント低下し、4期連続で悪化した。業種別に見ると、比較的好調であった建設業・不動産業で好調感が弱まり、製造業はさらに悪化している。卸売業・小売業・サービス業は前期同様の厳しい状況が続いている。来期は、建設業の好調感がさらに弱まり、製造業・サービス業は今期同様の厳しさが続くものの、卸売業・小売業は若干持ち直すと予想している。

<製造業>

業況は4期連続で厳しさが強まり悪化が続いている。売上額・受注残・収益とも前期よりさらに減少幅が拡大した。価格面では販売価格がゆるやかな上昇で推移し、原材料価格は再び上昇傾向を強めている。

経営上の問題点の上位2位は前期同様に「売上の停滞・減少」、「同業者間の競争の激化」、重点経営施策の上位2位も前期同様変わらず、「販路を広げる」、「経費を節減する」の順となっている。

来期の業況は今期並の厳しさが続いて推移すると予想している。売上額は水面下ながらやや減少が弱まり、受注残・収益は今期並の減少で推移するとみている。

<卸売業>

業況は前期並の厳しさで推移し、売上額はわずかに減少を強め、収益は4期連続で減益幅が拡大し一段と厳しさを強めた。価格面では、販売価格がわずかながら上昇傾向が弱まり、仕入価格も前期同様の上昇傾向で推移した。

経営上の問題点の上位2位は「売上の停滞・減少」「同業者間の競争の激化」、重点経営施策の上位2位は前期同様に、「販路を広げる」、「経費を節減する」の順となっている。

来期の業況は水面下ながらわずかに厳しさが緩むと予想している。売上額・収益ともに減少幅が縮小すると予想している。

<小売業>

業況は前期同様の厳しさが続いている。売上額は再び減少を強め、収益は前期並の減少で推移した。価格面では、販売価格がやや上昇を強め、仕入価格も前期より上昇傾向を強めた。

経営上の問題点の上位2位は前期同様に「売上の停滞・減少」、「大型店との競争の激化」、重点経営施策の上位2位も前期同様「経費を節減する」、「品揃えを改善する」の順となっている。

来期の業況は低迷が続く中でもわずかに改善がみられると予想している。売上額・収益ともに今期よりも減少幅が縮小するとみている。

<サービス業>

業況は前期同様の厳しさで推移している。売上額は前期並で推移し、収益は水面下ながらわずかに減益が弱まった。価格面では、料金価格の上昇幅が拡大し、材料価格は前期同様の大幅な上昇傾向が続いている。

経営上の問題点の上位2位は前期同様に「同業者間の競争の激化」、「売上の停滞・減少」、重点経営施策の上位2位も前期同様に「販路を広げる」、「経費を節減する」が続いている。

来期の業況は今期並の厳しさが続くと予想している。売上額は大きな変動なく推移し、収益もわずかな減少で推移するとみている。

<建設業>

業況は好調感がわずかに弱まつものの、売上額・施工高・収益ともに前期同様の増加幅で推移している。受注残の増加幅はやや縮小した。価格面では、請負価格が前期並のゆるやかな上昇で推移し、材料価格も前期同様の大幅な上昇が続いている。

経営上の問題点の上位2位は前期同様に「人手不足」、「同業者間の競争の激化」、重点経営施策の上位2位も前期同様に「人材を確保する」、「経費を節減する」の順となっている。

来期の業況は続いている好調感がさらに弱まると予想している。売上額・受注残・施工高・収益は増加幅が大幅に縮小するとみている。

<不動産業>

業況は前期同様に続いている好調感が減速した。売上額はわずかな増加にとどまり、収益も横這いに近いわずかな増加となった。価格面では、販売価格・仕入価格ともにわずかに上昇が弱まっている。

経営上の問題点の上位2位は前期同様に「同業者間の競争の激化」、「商品物件の不足」、重点経営施策の上位2位については「情報力を強化する」、「宣伝・広告を強化する」の順となっている。

来期の業況は今期同様の好調感は維持して推移すると予想している。売上額は増加幅がさらに縮小し、収益は今期並にほぼ増加が見られない状況が続くとみている。

[注]

○D.I (Diffusion Index ディフュージョン インデックス の略)

D.I（ディーアイ）は増加（又は「上昇」「楽」など）したと答えた企業割合から、減少（又は「下降」「苦しい」など）したと答えた企業割合を差し引いた数値のことで、不変部分を除いて増加したとする企業と減少したとする企業のどちらの力が強いかを比べて時系列的に傾向をみようとするものです。

○（季調済）D.I…・本調査におけるD.Iは季調済D.Iを使用しています。

季調済とは、期ごとに季節的な変動を繰り返すD.Iを過去5年間まで遡って季節的な変動を除去して加工したD.I値です。修正値ともいいます。

○傾向値

傾向値は、季節変動の大きな業種（例えば小売業）ほど有効で、過去の推移を一層なめらかにして景気の方向をみる方法です。